国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科修士課程　２０２０年度課題研究発表会

認知症当事者の主権回復に挑んだ3人の看護師

～ライフヒストリーから新しい道を切り開いた要因を考える～

2021年2月14日

平岩　千代子　19S2046
医療福祉経営専攻医療福祉ジャーナリズム分野

研究指導教員：大熊由紀子教授
副研究指導教員：埴岡健一教授

認知症当事者の主権回復に挑んだ3人の看護師

～ライフヒストリーから新しい道を切り開いた要因を考える～

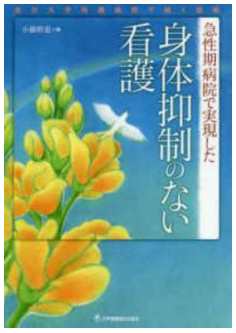
＊3人の看護師および、それぞれ4-6人の関係者にインタビュー

田中とも江さん

1980年代に精神病院の老人病棟で、身体拘束ゼロを達成。介護保険制度下での身体拘束禁止規定制定のきっかけに。若月賞受賞。

小藤幹恵さん

大学病院で、一般病床だけでなく、精神病床、ICUを含め、病院全体で身体拘束ゼロを達成。



永田久美子さん

「認知症とともに生きる希望宣言」など、認知症本人が社会に向けて発言できるよう支援し続ける先駆者。若月賞受賞。

看護師①：田中とも江さん

～縛らない看護、尊厳ある暮らし回復への挑戦～

- プロフィール
  - 1948年、福岡県の炭鉱の町、筑豊生まれ。
  - 中学卒業と同時に、15歳で愛知県の診療所へ就職。住み込みで働きながら准看護学校へ通う。
  - 20歳で上京し八王子市内の精神病院で16年間働く。精神病院で患者さんが「最下層」の非人道的な療養環境**“地獄の縮図”**に憤りをもつ。
  - 36歳のとき、看護の仕事に誇りを持ちたい一心で看護専門学校に通い、正看護婦資格を取得。
  - 卒業と同時に、**精神病院上川病院の老人病棟**へ。主任になった86年に身体拘束廃止に向け、包帯を含め病院中の紐をすべて捨てる。**1年半で身体拘束ゼロ達成。**
  - 福岡の病院10病院で「抑制廃止福岡宣言」、**介護保険施設で身体拘束原則禁止規定のきっかけ**をつくる。99年『縛らない看護』（医学書院）出版。
  - 独立後、NPO法人市民の立場からのおむつ減らし研究学会理事長
  - 現在、「ケアホーム西大井こうほうえん」（特定施設）施設長、拘束廃止研究所所長、ユマチュード・エグゼクティブインストラクター。
    要介護5でも、認知症が重度でも、最期まで、口から食べて、トイレで排泄する暮らしを支援。

- 関係者インタビュー
  - 田中義行さん：田中とも江さんの長男。現在理学療法士
  - 有吉通泰さん：有吉病院院長。福岡抑制廃止宣言発表にあたり、福岡における旗振り役
  - 石田昌弘さん：当時日本看護協会政策企画室長、現在参議院議員・厚生労働委員会筆頭理事
  - 桐山伸也さん：ケアホーム西大井こうほうえんと共同研究。静岡大学情報学部情報学科准教授

看護師②：小藤幹恵さん

～「患者さんにとっての最善」を最上位価値にする挑戦～

- プロフィール
  - 1958年生まれ。石川県金沢市育ち。
  - 地元で暮らし続けながら手に職をつけたいとの理由から、金沢大学系列の短大看護学科に進学。金沢大学附属病院勤務。
  - **歴代最年少**で看護師長、副看護部長、**看護部長・副病院長**を歴任。
  - 副看護部長のとき、**千葉大学大学院で看護管理**を学ぶ。3年間、**毎週末片道7-8時間の通学**。
  - 身体抑制は精神科病棟で行われているだけと思っていたにもかかわらず、「抑制帯を借りてきました」との声を一般病棟で耳にして危機感をもち、身体抑制ゼロに取り組む。
  - **2016年、ベッド数838床の金沢大学附属病院全体で（一般病床、精神病床、ICU含む）身体拘束ゼロを達成。**
  - 現在、石川県看護協会会長

- 関係者インタビュー
  - 和田出静子さん：金沢大学付属病院副看護部長時代の上司。元石川県看護協会会長。
  - 手島恵さん：千葉大学院時代の指導教授。千葉大学大学院病院看護システム管理学教授。
  - 石垣靖子さん：臨床倫理のパイオニア。金沢大学病院で開催する臨床倫理の講座の講師。
    北海道医療大学名誉教授。
  - 中西悦子さん：金沢大学病院副看護部長。当時、臨床倫理担当専従。

看護師③:永田久美子さん

～「認知症本人の意思」を最重視する社会づくりへの挑戦～

- プロフィール
  - 1960年、新潟県三条市生まれ。**幼いころの2つの原体験**。
    ①門前市に店を出す農家のおじいちゃん、おばあちゃんの姿。ボケても、稼ぎ、笑いのある日常。
    ②脳卒中で認知症になった祖父と、長男の妻である母による家庭内介護の辛い実態。
  - 介護される人も介護する人も、ともに幸せになるケアとは？
  - 千葉大学看護学部時代に病院や施設巡り。縛られたり徘徊するする姿に医療や看護への疑問。
  - 「**呆け老人を抱える家族の会・千葉県支部**」の集いの手伝い、電話相談、家庭訪問、調査など。
  - 東京都老人総合研究所で**グループホームの立ち上げ支援**。「呆けの人の話を聴くのは趣味で、してください」
  - **認知症が重い人も、周囲が聴く耳をもてば、本人が発する意思や言葉はわかる。**
  - 現在、認知症介護研究・研修東京センター研究部長
    認知症本人の意思を尊重する社会づくり、2つのアプローチ。
    ①認知症当事者の想いや声を社会に発信する支援。「認知症とともに生きる希望宣言」など。
    ②認知症本人を直接支援するサービス事業者や認知症施策をつくる行政を支援。

- 関係者インタビュー
  - 中島紀惠子さん:千葉大学大学院時代の恩師。「呆け老人を抱える家族の会・千葉県支部」創設
  - 藤田和子さん:認知症当事者、日本認知症ワーキンググループ代表。希望大使
  - 丹野智文さん:認知症当事者。地元仙台でさまざまな当事者活動を展開。希望大使
  - 櫻井記子さん:希望大使春原治子さんのパートナー。特養ホーム「ローマン上田」前施設長
  - 櫻井正子さん:グループホーム「オリーブの家」運営管理者。看護師。センター方式作成委員
  - 武田純子さん:グループホーム「福寿荘」総合施設長。看護師。

3人の看護師の挑戦を読み解くと・・・

それぞれがおかれた環境の中で
“おかしい” と思ったことを
“本来あるべき姿” “当たり前の姿” に戻す挑戦

＝人間らしく生きることを「妨げていること」を取り除く
身体拘束/管理・支配された生活環境/本人の想いの無視

＝「最初に人間ありき」へのパラダイム転換の提唱と実践

パラダイム転換のカギ:3人の看護師の卓越した特性

- 田中とも江さん
  - 徹底した現場第一主義
- 小藤幹恵さん
  - たぐいまれなリーダーシップ
- 永田久美子さん
  - 認知症が重くても、意思を発信できるとの揺るぎない信念

パラダイム転換に共通する5つのカギ

1 大義ある明確なゴール = 目指すは山頂

- 共通するゴール:**弱い立場の人たちも、一人の人間として豊かな人生が送れるよう、人間らしい暮らしができる生活環境を整える。**

2 市民としての当事者性から生まれる、基本的人権に対する倫理観

- 縛られている姿、本人の意思が完全に無視されることに「自分だったら」と想像し、当事者の気持ちに共振、共感
- 一般常識から考えて“おかしい”と思うことに真正面から向き合い、“当たり前”の姿に戻す
- 病気や認知機能の低下という苦しみをもつ人たちも、人としてみな同じ。すべての人は、平等・対等との基本的人権意識。

3　看護師としての誇り、「療養上の世話」の価値

- 看護師の二大業務は、「診療の補助」と「療養上の世話」。
- 療養上の世話：生活の営みを整えること。看護師が主体的に行える業務。
  その価値を高く評価。
- 「看護師以外、誰が、患者さんを守るのか」との強い使命感。

4　「医療安全のための身体拘束」は詭弁、という信念

- 身体拘束は、生命力を阻む。
- 医療が本来目指す、治療、回復、看護とは正反対のベクトル。
- 医療は、患者さんに害を与えてはいけない。
- 医療安全、誰のため！？

5　人を育てる

- 田中さん、小藤さん：ケアを担う現場の人材を育てる。ユマニチュードの導入は共通。
- 永田さん：認知症の人とともに生きる社会づくりを担う人材を育成。
  ①認知症の人にサービス提供する人材、②認知症施策をつくる人材

最期まで人間らしく生きることを望むなら、

人間らしく生きることを「妨げていること」をとりのぞく

市民、専門職、行政職・・・すべての人が、対等・平等の立場で

“おかしい”と思うことを“本来あるべき姿”に戻す
「最初に人間ありき」への
パラダイム転換に挑む勇気を！

ご清聴ありがとうございました。

先生方のご指導、ご助言に心より感謝申し上げます。